

東日本大震災 救援速報 NO.18

TEL 075-801-2308 FAX 075-812-4149 E-mail;sohyo@labor.or.jp

京都総評 救援ボランティア 岩手県奮戦記とどく

京都総評救援ボランティア第1団は、4月21日から全労連のボランティアバスで岩手県大船渡入り。連日の活動のようすが届いてきましたので、紹介します。

なお、第1団に参加しているメンバーは、京都総評辻副議長、同尾崎事務局次長(自治労連)、自治労連(京都市職労・中井さん、同桜井さん、府職労連・土肥さん、長岡さん、尾林さん)、京教組(本部・小澤さん、市教組・大味さん)ら、9名のみなさんです。

▼ 一行は、4月21日早朝の新幹線で東京へ。全労連「東日本大震災被災者救援ボランティア派遣バス」に乗り込んで東京を朝発ち、夜7時に岩手県大船渡に入りました。「途中、高速道路は、地割れ補修でコンディションが悪く、強い衝撃がくる悪路。宿舎は、当初予定の『あづま荘』からさらに30分ほど山に入ったコテージに。電気・水道は来ている。1時間に1回程度の揺れを感じる」とのメール。

▼ 翌日22日(金)、朝から現地社協に登録、ワッペンを肩に貼って物資の整理に入る。夕方ワッペンを戻して終了まで、物資が箱で山のように積み上げられた中で仕分け作業。要員が箱の山に頭だけ見える学校の体育館。大船渡は5月中ボランティア活動をすすめ、その時点で、その後を判断することのこと。

▼ 23日(土)は、1階が浸水被害にあった個人宅の掃除。センターの方と11人で作業スタート。相当の量の家財を廃棄。肩くらいまで水が来たそうで、家が残っている限界の位置。昼に作業完了で一旦センターに戻り、仕分け作業の支援へ。夜は、やっと京都のメンバーで交流できました。

▼ 翌24日(日)が大変でした。歩道に堆積した泥の撤去作業。20人近いメンバーで、5時間の重労働。1階に2メートルまで水がついた地域。一部の住宅では、2階に住みながら、改修を始めていました。川に沿って津波が到達したところでは全壊は一部にとどまっています。ヘドロに埋め尽くされたグラウンド、腐った魚の臭いが充満。畳など、家が残っても、復興には程遠い状況。

▼ 本日25日(月)は9時にボランティアセンターを出発、中学校と陸前高田の作業に別れて活動。午後、陸前高田のメンバーと合流し視察。陸前高田は、壊滅状態。自衛隊中心に撤去作業中。中心部はほとんど終わり、かなり奥の方の作業をすすめている模様。

メンバーは、明日26日に帰京します。※この報告は、男性陣からの中間報告です。

2便目の「救援物資、京都総評便」本日出発！

京都総評は、災対連本部倉庫(埼玉県草加市)に建交労の協力で、救援物資総評便の第2便を送り出しました。物資は、医労連、福保労、京建労、自治労連、全国一般、伏見地区労、JMIU、京都国公、私教連、新婦人、日本共産党の物資103箱と、京都市職労の物資168箱。ラポール京都で各労組の協力で積み込んだ4トントラックを市役所へまわして、京都市職労の皆さんと積み込み。市役所に来た市民や職員、郵便配達の労働者からも、「東北行きですか」「おっ、京都総評か！」と注目を受けました。

※救援物資は、現在本部倉庫の整理待ちです。次回の集荷は少しお待ちください。